言うは難く、行うは易し
（内なる「ホリエモン」）

ホリエモンとは一体何者だったのだろうか。
そう「過去の人」のように表現することに躊躇いを覚えるが、しかしそう問いかけずにはいられない何かを感じる。正直に云えば、私はホリエモンにそんなに悪い印象を持っていなかった。放送業界やプロ野球界のトップと比べれば「ましじゃないか」と感じていた。

株式１００分割で株式市場を荒らした時「太え野郎だ」と思い、社長をやりながら衆院に立候補した時「何を考えてるんだ」と思ったが、全体としては好ましく感じていた。その感覚と今回の強制捜査で露見してきた事実とのギャップをどう埋めればいいのか。これは私にとって軽視できないことのような気がした。ホリエモンを叩いても解決しないような気がした。

私を含め少なからぬ国民がホリエモンに好印象を抱いたのは、密室で決められるプロ野球運営に風穴を開け、手厚く保護されていることをいいことに下らぬ番組を垂れ流している放送業界に単身切り込んだからだと思う。それは既成のエスタブリッシュメントへの挑戦と見えた。
当時から、脱法的行為であるとか、法の隙間を突いているとか、お金転がしだとか、いろいろ云われてはいたが、それよりも権威に刃向かう無謀さが多くの国民を捉えたように思えた。自分に出来ないことをする彼に「もっとやれ」と心の内に叫んだのである。

しかし、ホリエモンはその裏で驚くべき出鱈目を行っていた。その行為は今後断罪されるだろうが、今ここで安易にホリエモン・バッシングに乗ることは、それを好感した自分の中のホリエモン的なものを叩くことと同じである。自分の中にあるホリエモン的なものとは何だろうか。それとどう対峙すればいいのだろうか。

本当は彼が書いている本を読む必要があるのかもしれないが、幾つか伝えられているホリエモン語録がある。「金で買えないものはない」「経営者は若ければ若いほどいい」「格差社会を社会が容認しなければならない」「人間はお金を見ると豹変する」「ずるいと言われても合法的だったら許される」「ゼロになったらやり直せばいい」等がそうだが、こうした言葉は自分自身とどう関わっているだろうか。

今回の事件の後、ある先生が授業で「お金で買えないものを８つ挙げなさい」と生徒に質問したと聞いた。子ども達は、「友達」とか「親」とか「愛情」とか答えたようで何だか少し安心したが、私達は「カネでは買えないものはない」というのは間違いだは思いつつ、心の何処か奥底で「そういうところもあるナ」と感じている自分がいることを知っている。
又、政治家やその筋の専門家が「ホリエモンの行動は許されない」となじってみても、「法律すれすれの所で立ち回っている奴らは少なからずいる」ことを知っているし、自分自身「ずるいと言われても合法的なら許される」と思っているところがある。
多分、ホリエモンは私達が心のどこかに密かにしまいこんでいる思いや考えをストレートに言い放ち、直接的に行動に移したのだ。

今回の事件で不快に感じたのは、強制捜査後にホリエモンを一刀両断に切り捨てる者達の声だった。「正義」とか「善」とか「道徳」といった衣装を纏った声が辺りかまわず響いた時、私は思わず耳を塞ぎたくなった。そうすることは自分自身を切り付けることに他ならなかったからだ。私達は「内なるホリエモン」と正面から向き合う必要があるのではないか。

ある人が「言うは難く行うは易し」と云っていた。通常「言うは易く行うは難し」であるが、その時それを逆にした言葉が妙に胸に迫った。そう、「言難行易」が云い当てているものがある。
昔、ある詩人が「本当のことを言えば世界は凍ってしまう」と云ったが、それほど重い「本当のこと」は何処にあるのだろうか。軽やかでどこか善人ぶった言葉が横行する中で、ホリエモンの言葉は、「本当のこと」ではないが「本当のこと」に近づこうとして多くの人に親和と反発を呼んだ。そんな風に思わないだろうか。

ホリエモンとは一体何者だったのだろうか。
株式市場や政治に残した傷はいずれ回復するだろうが、心に残した傷は簡単には消えないような気がする。「本当のこと」は未だ誰も云っていないような気がする。

《複製・転載等はご連絡下さい》

TEL. 0438−53−6092　FAX. 0438−53−6096
URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/　Email：smc_toyo@hi-ho.ne.jp